

報道関係 各位

平成22年10月 8日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について
(お知らせ)

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の後片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

10月4日10時02分、原子炉機器輸送ケーシングによる原子炉容器から炉内中継装置の引抜き作業を開始いたしましたが、引抜きのためのグリッパの降下中、10時22分、現場操作盤において「荷重超過」の警報（ノイズによるグリッパ荷重の指示値の減少）が発生したことから、作業を中断しています。

10月7日より、ノイズによる誤警報を抑制する対策の実施及び検証を行うため、原子炉機器輸送ケーシンググリッパの昇降動作による確認を含む試験を実施しています。

昨日、対策の有効性確認のための試験条件である、荷重超過を検出する信号の設定が適切でなかったこと*が判明したことから、この設定の見直しなどについて、現在検討を行っています。今後、設定条件の見直しなどの作業を慎重に進め、検証を再開する予定です。

なお、ノイズによる誤警報を抑制する対策内容について変更はありません。

* 検証試験用に荷重超過警報の設定値を520kgとした際、荷重超過警報をリセットする値を通常設定と同様に「警報設定値-100kg」（420kg）と設定したため、グリッパの荷重が約500kgであることから、荷重超過の信号がリセットされず継続したことから警報発報に至った。

以上